

No.25

建設現場における安全書類のデジタル化
—Degisite - 安全の開発—

轟見 淳也¹⁾、佐藤 照晃²⁾、熊本 健³⁾

Degitization of Safety Documents on Construction Sites :
Degisite-Anzen

Junya Tsurumi¹⁾, Teruaki Sato²⁾ and Takeshi Kumamoto³⁾

■ 要 旨

2024年4月から建設業に施行される労働時間の上限規制に対応するため、建設現場の生産性向上および業務の効率化は喫緊の課題である。建設業各社は、積極的にICT技術を導入することで課題への対応を進めている。当社では、2021年10月より当社職員と協力業者の職長の情報共有ツールの利用加速、迅速な情報共有による業務の効率化を目的として、協力業者の職長にタブレット端末を貸与している。本開発では、タブレット端末のさらなる利用促進による業務効率化を推進することを目的に、現場で毎日作成する安全書類をデジタル化するアプリケーションを開発して現場に導入した。その結果、安全書類の記入および管理が簡略化し業務効率化に対して効果があることを確認した。

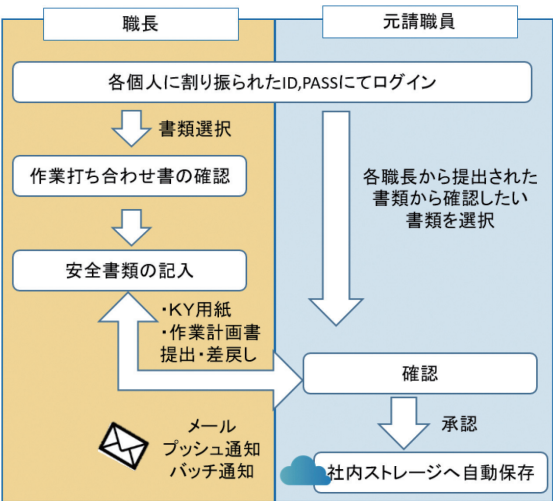


図-1 アプリケーションの運用フロー

工事名 (仮称) Penta新築工事業計画	「危険予知」並びに「予定外作業打合せ書」				日付	1月1日 (月)	元請確認	承認
会社名	Penta工務店	職長	ペンタ 太郎	本日の作業開始前点検	① 外部足場	② 電線工具	③ 保護具	
工種または作業名	型枠工	グループ長	バク 次郎	(作業現場で確認事項をチェックすること。)	④ 生糸	⑤ 作業通路の確保	⑥ クイックスリング	
NO	本日の作業内容 (手順)	1R どのような危険があるか (作業による危険性、作業時)	2R 私たちはこうする (危険性・有害性の回避措置)	3R 3R 3R 3R	4R 4R 4R 4R	5R 5R 5R 5R	6R 6R 6R 6R	誰が (氏名)
1	3F 2工区 腰壁型枠撤去	木加工機、切断工具に手を挟む	保護具着用、切断機の安全カバーの閉	3	3	9	5	轟見 大樹
2	2F 2工区 腰壁型枠撤去	吊荷が落下し、下敷きになる	3-3-3運動の実施、吊荷直下の人がい	2	3	6	5	高橋 山田
3	B1F 7工区 基礎型枠解体	酸欠により倒れる	送風機、酸素濃度計を設置する	3	3	9	5	笹井 古川
				1	1	1	1	
				1	1	1	1	
				1	1	1	1	
◎本日の重点行動目標 (2Rの項目から特に重要なものを選び丸で囲む) ◎ワンポイント								
3-3-3運動の実施・吊荷直下の人がい								
ヨシ!								
○ 入力項目の明確化 職員による記録・提出 → 黒字記載 職員による確認・差戻し → 赤字記載 職員による訂正・提出 → 青字記載 職員による承認 → 自動押印								
○ 自動入力 黄色 : 自動記載、自動押印 緑色 : 自動計算 (選択式)								
可能性 重大性 軽症 (1) 重症 (2) 重傷 (3)								
飛来・落下、激突され (2) 墜落・転落、転倒、はさまれ・まきこまれ、切れ・こすれ、高温低温の物との接触 (熱中症) (3)								

図-2 使用例

1) 技術研究所 建築技術開発部
2) ICT 推進室 ICT グループ (施工)
3) 建築部門 建築本部 建築部